

文理科学科

福高はあなたの「みらい」を応援します！



「みらい学Ⅰ」特別講義 開催 ～京都大学 連携講座～



福知山高校文理科学科では、独自の学校設定科目として「みらい学」を教育課程に置き、研究活動を通して分析力、仮説検証力、問題解決能力を培い、自らの適性について考えるとともに進路実現に資する能力を育てています。

1月21日（金）、今年度最後の「みらい学Ⅰ」特別講義を開催しました。「みらい学Ⅰ」では、今までに「農学」「経済学」「古生物学」「法学」の分野で特別講義を実施してきましたが、今回は「グループ研究の手法を学ぶ」という研究活動をテーマとした特別講義となりました。

この講義では来年度に実施する「みらい学Ⅱ」のグループ研究活動に備えて、京都大学大学院情報学研究科准教授の荒井修亮先生とグローバルCOE助教の奥山隼一先生からグループ研究活動の手法について分かりやすく御講義いただきました。

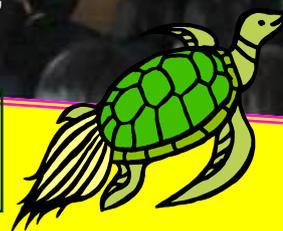


八重山諸島におけるグループ研究



ウミガメの研究

京都大学大学院情報学研究科
グローバルCOE助教：奥山 隼一 先生



論文の構成

1年6組 山崎 智洋 福知山市立六人部中学校出身
今回はグループ研究についての講義を受けて、グループ研究の意義やメリットについて学び、みらい学Ⅱに生かせることがたくさんありました。また、私たちの班で話し合いをしていると、教授が、研究とはどのようなものかについて教えてくださいました。「研究では話題性なども確かに大事かもしれないが、まずは自分の知りたいという欲求を満たすことから始まる。」と、言っておられたのがとても心に残りました。この言葉を胸にきざんで、これからもみらい学をがんばりたいです。

1年6組 多田 悠亮 綾部市立豊里中学校出身

今回京大の教授の方たちから、研究手法の講義を聞いて、今までも意識して取り組んできたけど、しっかりした研究にはなっていないことに気付いた。テーマの決め方から、論文の書き方まで、非常に詳細に説明していただいたので、参考になった。その講義を聞いた後に、再びテーマを考えてみるとなかなか進まず、研究の難しさを痛感した。グループ研究での長所を活かして、これからの研究を円滑に進めていきたいし、今までの中で最高の発表にできるように頑張っていきたい。



京都大学大学院情報学研究科
准教授:荒井 修亮 先生



研究テーマごとにグループに分かれ話し合い



1年6組 西山 翼

福知山市立三和中学校出身

今日の講義を聴いて、研究の本質がわかったような気がします。前回の私の研究は実は「研究」ではなかったことがわかりました。グループ研究のよいところもたくさんあったので、その利点を生かして、よりよい発表にできたらいいと思います。「研究とは、新しい事実や解釈を発見すること」と、今日の講義であったので、北部医療問題について班でしっかりと調べて、自分たちの意見を述べるができるように努めていきたいです。テーマの設定について失敗すると、ただの「確認研究」になってしまうので、しっかり話し合っ、より良いテーマで、より良く「研究」をしていきたいです。



生徒たちは、グループ研究の進め方、研究テーマの決め方、文献調査の方法、論文（レポート）の書き方について、大学で実施されている研究例を紹介していただきながら学ぶことができました。“研究とは新しい事実や解釈を発見することである”この言葉を教訓に生徒たちはグループ研究活動に取り組みます。